

報告者（所属）	田所彩実南（社会人）
期日	令和8年5月24日（土）、25日（日）
大会名	令和7年度近畿女性審判強化講習会（HOOP REX・SPAZIO CUP 2026）
会場	大浜だいしんアリーナ（堺市立大浜体育館）
講師	JBA 公認1級審判インストラクター 村上恵美氏 JBA 公認1級審判インストラクター 嶋崎尚美氏 JBA 公認1級審判インストラクター 小出聡子氏 JBA 公認1級審判インストラクター 北沢あや子氏 JBA 公認1級審判インストラクター 柳生志乃氏
内容・感想	<p>この度、近畿女性審判強化講習会に参加させていただきましたので、下記の通り、ご報告いたします。</p> <p>担当ゲーム（全てハーフゲーム、1Q・4Q扱い） 5月23日（土） Cグループ【原田麻末（岡山・B）中川緋菜（大阪・B）後藤怜美那（兵庫・B）南麻衣（京都・B）原田香菜子（和歌山・B）】 4試合をCグループでメンバーを替えながら行なった。（1Q or 4Q） IR 北沢あや子氏</p> <p>両チームともコンタクトが強く、タフなゲームであった。単にファウルを取り上げるだけではなく、ゲームをタフな試合として成立させる必要があることを学んだ。カテゴリーによってコンタクトの強弱や基準は異なるため、そのゲームに合わせて、吹くべきコンタクトとタフにプレーを続けさせる部分を見極めることが重要である。また、最後のコンタクトの場面では、DFが手を下ろしてファウルをした可能性だけでなく、OF側のプレーにも目を向ける必要があると学んだ。オフenseが手を巻いていなかったか、またDF側からも「手を巻かれている」という訴えがあったことから、双方のコンタクトを丁寧に見て判断する必要がある。ポジションアジャストについては、Cにいた際、目の前のプレーと近すぎたことで確実な判断ができず、笛を吹き切れなかった。後からビデオを見直すと、プレーが起ることを予測し、一步後ろに下がってアングルを確保する必要性を学んだ。また、セットアップポジションにOFがいる際は、必ずクロージングダウンに位置することが大切であり、そこからローテーションへつながりやすくなる。実際にはローテーションのタイミングが分からず、なかなか実行できなかったが、「一步踏み出すところまではできているので、まずは行って見て失敗する経験も必要」と助言をいただいた。多くの課題が明確となり、自身の実力の未熟さを実感したゲームとなりました。</p> <p>5月24日（日） ASTRAEA vs 笠戸 BRAVE STAR</p>

CC 田中真規（大阪・A） U1 石塚美穂子（滋賀・B） U2 田所

IR 鈴木恵里奈氏

OTC ANCHORS vs 鶴屋百貨店

CC 新井田はなの（兵庫・A） U1 三富 千聖（大阪・B） U2 田所

IR 小出聡子氏

動き方やプレゼンテーションに課題が残るゲームとなった。オフenseファールやブロッキングなどのファウルについては判定することができたが、その後のプレゼンテーションの動作が小さく、相手に分かりやすく伝えるという点で改善の必要性を感じた。判定だけでなく、その後の見やすく明確なプレゼンテーションも審判として重要な要素であることを学んだ。また、動画を見返す中で、T のポジションアジャストについて課題を感じた。ボールに合わせて動いているような動きになっており、プレーやマッチアップを意識したポジション取りが十分ではなかった。ボールだけでなく、プレー全体を捉えながら適切なアングルを確保できるよう、今後の課題として取り組んでいきたい。今回のゲームを通して、判定だけでなく、動き方やプレゼンテーションを含めた総合的なメカニクスの向上が必要であると感じた。

所感

今回、近畿女性審判強化講習会に参加し、レベルの高いゲームを担当する中で、多くの学びと課題を得ることができた。特に、カテゴリーによってコンタクトの強弱やゲームの特徴が異なるため、そのゲームに合わせて吹くべきコンタクトとタフにプレーを続けさせる部分を見極め、ゲームをコントロールしていく重要性を学んだ。また、判定においては一方向だけを見るのではなく、オフense・ディフェンス双方のコンタクトやプレーを丁寧に確認し、より確実な判断につなげる必要性を感じた。メカニクスの面では、ポジションアジャストやローテーション、セットアップポジションからのクロージングダウンなど、多くの課題が明確となった。C ではプレーとの距離が近すぎたことで笛を吹き切れない場面があり、動画を見返すことで、プレーを予測しアングルを確保するためのポジション調整の重要性を学んだ。また、ローテーションについてもタイミングに迷い積極的に行けない場面があったが、失敗を恐れずチャレンジすることの大切さを助言いただき、今後の課題として取り組んでいきたいと感じた。さらに、2日目では動き方やプレゼンテーションにも課題が残った。ファウルを判定できたとしても、その後のプレゼンテーションが小さければ相手に伝わりにくく、審判としての説得力にも影響することを実感した。また、T のポジションアジャストについても、ボールに対して動いているような場面が見られ、プレー全体やマッチアップを意識した動きの必要性を感じた。今回の講習会を通して、自身の実力の未熟さを改めて実感した。一方で、多くの課題と向き合い、講師の方々や他県の女性審判員の方々から多くの助言をいただけたことは大変貴重な経験であり、自身にとって大きな刺激となった。今後は今回学んだことを県内での活動に還元し、女性審判員の活性化や審判技術の向上につながる

よう取り組んでいきたいと思ひます。

最後になりましたが、今回参加させていただくにあたり、ご指導いただいた講師の方々、近畿ブロック女性審判の皆様、近畿協会 TO 委員会、徳島県バスケットボール協会、大会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。